

(6) 大用小学校

学 校 長 弘瀬 利英
校内研究代表者 山脇 昌代

1. 研究主題 「確かな学力を身につけ、ともに学び合う子の育成」

2. 主題設定の理由

本校の児童は、豊かな自然と温かい地域の人達に見守られ、明るくのびのびと生活している。少人数の集団の中で真面目に取り組むことができ、友だちにも優しい。しかし、少人数がゆえに、短い会話で意思疎通がすんでしまい、自分の意見や考えをしっかりと言葉にしてみんなの前で発表したり、説明したりすることに課題のある児童が多い。また、他校との交流会ではなかなか自分を表現できないなど、自己表現力やコミュニケーション能力に課題がみられる児童もいる。

全国学力・学習状況調査や高知県学力定着状況調査等の結果から、国語科の読み取る力に課題が見られたため、4年前から国語科の授業研究に取り組んできた。全学級での研究授業を行い、西部教育事務所の指導主事に2回『学びに熱中する子ども』について、高知市教育委員会学校教育課の片岡忠三先生に2回、「説明文・物語文の授業づくり」について講話をしていただいた。また、予習と授業のサイクル化として、説明文・物語文の予習カードを単元ごとに作成し、根拠となる文章を探し登場人物の気持ちを考えたり、意味調べをするなどして、話し合い活動の時間を確保できるようにしてきた。また、ワークプリント集を活用し、基礎タイムなどでことばのきまりや漢字、読解の力をつけることにも取り組み、基礎学力の定着に努めてきた。

12月の高知県学力定着状況調査の結果は国語科、算数科ともに全国平均+10以上を上まわることができた。しかし、分析を行うと国語科の書く力、話す・聞く力に課題が見られた。

このような実態から今年度も国語科を中心とした授業研究に取り組み、「書く力」「聞き取る力」を高めるための取組を行っていく。取組の中心は、予習を生かした授業づくりとし、国語科の物語文・説明文の予習カードを活用し、児童が主体的に学習する態度の育成を図ってきたい。また、昨年度からNIE教育の指定を受け、新聞を取り入れた取組を行ってきた。今年度も新聞を活用した取組を行いながら書く力、聞く力を育成していく。高知新聞社の方を講師に迎え、インタビューの仕方や記事の書き方などを教えていただき、書く力の向上を図ってきたい。そして、授業DXとして児童が自分なりの学び方を選択しながら資質・能力を身に付けることができるような授業づくりに取組んでいく。そのために能力ベースのめあての設定、つきたい力を明確にした授業研究や指導方法の工夫改善に努め、学年に応じた確かな学力の向上をめざしたい。

3. 研究の進め方と方法

①校内研究推進にあたって共通理解しておくべきこと

- ・子どもの実態に基づいた教育実践を進める。
- ・へき地・小規模校の特性が生かせる特色ある教育活動の創造に取り組む。
- ・教育実践を互いに見つめ合い、検証し合いながら共に教師として高め合う研究をする。
- ・前年度までの実践を継承すると共に、より良い実践となるよう改善しながら研究を進める。

②具体的な取組

- ・授業DXを行うために、教職員が授業DXについて研修
- ・様々な教科でタブレット（ロイロノート等）を活用し、子どもにタブレットを活用する機会を設け、スキルアップを図る。

- ・研究授業（国語科）を全学級が行い、学習リーダーを中心に予習を取り入れた授業を研究

教科・領域	月日	学年	単元名・教材名・主題名
国語	6月4日	4年	4年 「走れ」
国語	7月9日	1・2年	1年 「どうやって みを まもるのかな」 2年 「どうぶつ園の かんばんと ガイドブック」
国語	10月7日	5・6年	5年 「注文の多い料理店」 6年 「模型のまち」

- ・言語活動を充実（既習の内容や言語を活用し説明する）
- ・「分かる」から「できる」へと深める授業改善
- ・国語科の物語文、説明文を中心に単元ごとに予習カードを作成
- ・複式授業等の研究

4. 今年度の成果と課題

〈成果〉

- 授業研究を国語科にすることで読む力が付き、算数科の学力も上がってきた。
- 講師を招聘し、「分かる」から「できる」への取組を意識することができた。
- 全校活動（作文・新聞朝会等）で発表の後、全員が感想を言うことでしっかりと聞き、その場で自分の意見を持つという力がついてきたと思う。
- 加力学習を全教職員で取組むことで問題にも慣れ、最後まで取組むことができた。
- 新聞活用では、ワークホールや5・6年生教室の前に新聞を置くことで、読んだり、授業に活用する児童が見られた。
- 授業DXの取組で、ロイロノートを中心にタブレットに触れる機会が増え、操作の仕方にも慣れてきたように思う。
- 事務職員の協力で、ICTを活用する時の手立てを考えることができた。
- 学力調査の分析を話し合うことで、今後どのような取組を学校全体が行っていけば良いかを考えることができた。

〈課題〉

- 家庭学習の手引きを、家庭訪問で配布しているがあまり活用している様子がないので、来年度からは配布しない。
- 「ことば学習カード」は年度初めに活用したが、その後はあまり活用している様子がなかったため、来年度は教室に置き、使いたい時に使えるようにする。
- タイピングの時間を確保することが難しいので、来年度から、木曜日の基礎タイムで行なうようにする。
- 教職員が授業DXの取組や効果的な活用の経験が少ないので、取組を考えていく必要がある。
- 家庭学習でタブレットの持ち帰りを行なってきたが、家庭でネット環境が整っていない児童がおり、実施しにくかった。また、タブレットだけでは、書く力が付きにくいので、来年度は家庭学習は従来通りノートやプリントとし、学校でタブレットを使うようにしたい。

来年度に向けて

- ・小小連携を強めるために、授業研究を行う際に蕨岡小学校に声をかけ、合同授業研を行うなどの取組を考えていく。
- ・来年度も研究授業を国語科で行っていくが、予習の取組に慣れさせるために、これまでは教師主導の内容となっていた。来年度からは、予習の内容を児童が考え、主体的に取組めるように高学年から取組を考えていく。また、学年に合った内容を考える必要がある。